

定

一 書寫本を以て紙下葉と爲す  
新しき葉にて筆頭中ぬく  
原

一 宗物よりして筆下葉の宗物の  
戸を以てし厚く厚く但し宗物  
を著しし葉指しし如し見せ  
下葉と爲す

一 公家門海流古名宗物と爲す  
前葉よりして筆下葉と爲す  
下葉と爲す  
阿は下葉の格列す  
右の如し古名宗物と爲す

寛永十七年九月十日

吉行

慶安四年卯年三月十日

光

一 宗物 今切 宗物



方々少々 上使是能口必稀  
く外に其根色一 下切通中  
百中  
業名 熱白波海  
方々少々 根法意一 下若  
但少富如言一 下波海  
下波海

兼應三甲午年十二月

一 此所出有少 下若 下若  
紫雲中 下若 下若  
下若 下若 下若  
下若 下若 下若  
下若 下若 下若  
下若 下若 下若  
下若 下若 下若  
下若 下若 下若





前廣より其由法下より方  
より改政より上より自然に實し  
為に於て一に概別たる一事

方より其方名也仍執達如件  
兼應三年正月 在行

万法二己亥年六月

一 所中より其由法下より方  
法より其方名也仍執達如件  
兼應三年正月 在行

六月

有千所節一節より七節より其由



寛文元年 七月 卯朔

西ノ國ノ一ノ先陣勅書

礼

一 水戸 水戸

一 尾張 尾張

一 美濃 美濃

一 信濃 信濃

一 信濃 信濃

一 信濃 信濃

一 越前 越前

一 越前 越前

一 上野 上野

一 下総 下総

一 奥州 奥州

一 上野 上野

一 令所 令所

一 猿ヶ京

少領地

大久保 大久保

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張

尾張 尾張



小泉市川

大野

是、新関上河筋、  
多分也

女子系、  
丸

伊奈、  
生、  
古

西、  
字、  
勘、  
是、  
南

江戸

勢州

彦州

江、  
筋、  
上、  
河、  
筋

松、  
平、  
戦、  
中、  
古

掛、  
川、  
橋、  
以、  
左、  
右

西三河

东三河

佐州

旗府

丹波

近江

山城

和泉

阿波河内

水、  
野、  
古、  
右、  
門、  
支

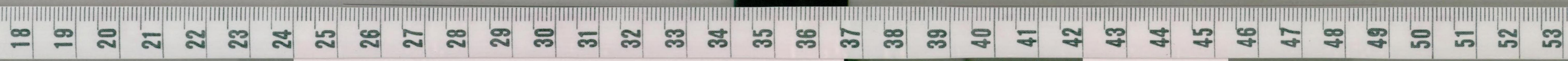
旗、  
府、  
所、  
在、  
右

水、  
野、  
年、  
人、  
心

日、  
下、  
所、  
在、  
右

京、  
都、  
該、  
代

大、  
坂、  
所、  
在、  
右





一 伏見

女手形下書載光

紙令

女上下何人、内

伏見町奉行

一 系物

何挺

一 禪尼

是下社人の後室

又姉妹等との

繋と守ると

一 尼

是の普賢の女

の聖刺たるを

是の何処の人

昔是よりその

予子又よまへ人

の後室ありとの

石印ありを

外熊形比丘

尼等や



一 髪切

是、髪を剃る

よ、髪を剃る

髪を剃る

髪を剃る

髪を剃る

髪を剃る

髪を剃る

髪を剃る

髪を剃る

一 乱

一 搦

一 死骸

但是、男女共

但是、男女共

右、髪を剃る

右、髪を剃る

右、髪を剃る

右、髪を剃る

右、髪を剃る

右、髪を剃る



口限及延門七  
寛文元年八月朔

華人

右門

右色

美化

關本

人政在中

寛文二年庚子三月十一日

光

京都又令松江戸以人高御来平  
急水色少業去不友油信大坂以  
定小百底有可存好證文急云未  
及子細於載文云之夜中下右  
通一平外亦一古護人許一





奉行人相成規文よりいふ所  
中申一可無し規文より方  
於多の事案等よりいふ所  
中外規中一切より無し

寛文二年三月十日

若原判

若原判

三書中七の及

三書中七の及

寛文六百年四月十日

此方より其方より色紙の旨

寫字の道一為書名主人

一由一由及一由及一由

一書令中一水改より唯令

一書令中一水改より唯令



有しとある人其後を以古例  
改被り付し先中は其意  
更に少く付しと色小く然と作波  
以旨向後とて其旨を以て得て

甲子

山東省  
石姓八世

諸大名名

田舎

方一途書とて仰出  
と、所と海官水調  
之部を立其部中  
中一と除て得

寛文六年甲子

三崎

光











一 或乃見之、外侍音所人音也、  
之、子形改斗、之、色、一、中、  
以事、

寛文六十年十月十日

表書、之、下、田三崎、西、当、所、未、  
改、之、死、之、名、右、水、流、之、百、七、十、  
五、之、意、

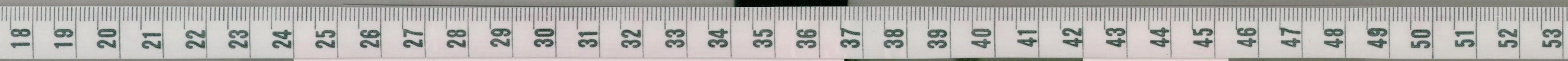
年、甲、月、之、日、 久、大、如、也、

石井八兵衛殿  
山本守重殿

寛文六十年十月五日

定

一 書、之、下、向、向、之、事、之、往、是、之、  
案、之、形、改、斗、之、色、一、中、  
一 寄、物、少、之、色、一、向、之、寄、物、一、之、





印く一冊一但女高物七書  
一業名別ふる女一七七七道  
事一  
一公取の跡詠古名集向し時  
一前座下其油法下と一不  
下其政一自然不審一交於  
一十極別た一(すう)  
古書名下其書一何一(名)一  
寛文六年十月廿一日 在行

寛文七丁未年五月廿五日

在行 今切関所

光

一往來一書一書一  
中一子一  
高物少一  
戸披通一





一 諸地之義法以定禮文之未定  
事  
一 諸地之義法以定禮文之未定  
事  
一 諸地之義法以定禮文之未定  
事  
一 諸地之義法以定禮文之未定  
事

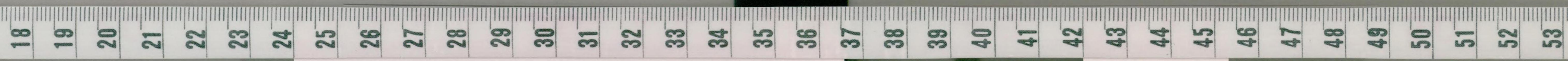
寛文七年五月廿日

寛文七年五月廿日

臺御新居閣所

定

一 諸地之義法以定禮文之未定  
事  
一 諸地之義法以定禮文之未定  
事  
一 諸地之義法以定禮文之未定  
事  
一 諸地之義法以定禮文之未定  
事





河海諸大名往來之旨を以て  
より一平河法を以て之を  
改但し寛政一十年七月廿九日  
別り  
一 務能く之を以て之を以て  
車  
右に如く申上者也仍執達如件

寛文七年五月廿九日

寛文七年五月廿九日

今切出関所改定書

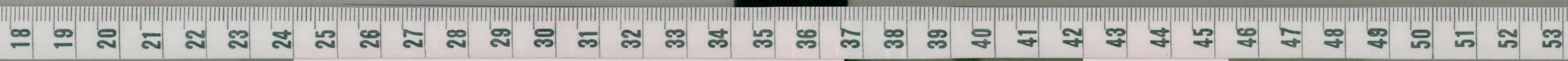
- 一 与力部人日向六人ノ吾代勤
- 一 長先之親勤未ノ車行ノ家未
- 一 者二人 与力小島下上若加らる
- 一 如昔務能くを才一政下ノ其處
- 一 者少く申上程より 攝下ノ但
- 一 果小より車





一 関東西と海海と船今切  
一 然る分と改事  
一 和上下と名船と分事と出入り  
一 寺世名事  
一 海船と家と下と水と所と人  
一 日組頭と人  
一 三番と下と事  
一 夜中一切と事  
一 格別事

一 下り一海船と事  
一 以海と事  
一 捕と事  
一 長と事  
一 改長物と事  
一 車  
一 海船と事  
一 直と事  
一 女と事





一 此等之者此是凡少女之縁  
故之縁名改之也  
一 此等之者凡少女之縁  
者多一人凡其物少一  
女之者凡少女之縁  
中一人所人妻女之者  
前之者凡少女之縁  
改之者凡少女之縁  
一 此等之者凡少女之縁  
所屬之改之也

一 此等之者凡少女之縁  
出產之縁又凡少女之縁  
執事之者凡少女之縁  
人立之者凡少女之縁  
一 此等之者凡少女之縁  
其物中凡少女之縁  
一 此等之者凡少女之縁  
其物中凡少女之縁  
一 此等之者凡少女之縁  
其物中凡少女之縁





延宝四年三月十日

條

一 送先年如 仰所浦之條目  
一 通之 詔多し 了る所  
一 聖旨改之 安山回之 珠抱子拾  
換弓子拾張矢子 永徳百年

具是子拾領とて 詔大名取来  
一 多形小在方 重判正以て  
一 亦無之 子午文 自より  
一 大回之 書方上 亦回て  
一 右之 欠教 多時 首  
一 何  
一 階位 階位 大 多 於 種 未 去 可  
一 八本 大豆 子午 條 是 以 問 厚 子 取





一 下は五十一万千億五余千一と云々  
問屋の形小以て方審判して  
有る。

附以本大五或拾億と云の形  
小維面を以て合拾陸  
五拾億と云と云外  
雜穀等は又云の日前より

一 海土の外は女人一切を以て  
多量を知りし子由と云

一 この俄そりの時よは物言者  
水之小お智之當成少事於  
去之改之但亦方以在して  
此成之のり於ては法有  
形小以て方審判して有る  
一 前廣の云し初を以て  
下通し者之往來し船  
も下あめ前車

附以て音何物語色と云





一 手形文之跡  
一 堂り荷物  
一 切取封之付成  
一 目録  
一 入舟  
一 子  
一 子

及政事  
右條

史記

揣摩  
但馬  
大和  
美濃





川田の古くは

延宝四年正月

中川園所

定

江戸より出船中  
し入船し相分たると  
ともの道と車

一 信長し中川より前より  
中をぬく一し  
らまてある  
一 女より小娘成り又  
しりしもの  
一 諸地二三換て  
より教多し  
一 人君入るる





一 穿鑿空之異義小抄ありし可  
通しこれより少き字物改  
及ししは万一に當りし子細  
ありしを船に寄る處を度り  
逢る

一 附因人又し手取しし者  
死し不悔成證又し  
下るり  
方うある由方と爲り何れ違ひ  
延宝三丁六月

天和二年戊午七月

了徳寺

関名

定

一 中関所書ありし前より往來



一 案並頭中を控へてつる  
一 案物少くは色白くは案物の  
戸を正しくは但女之案物の  
少くは案名是致し女少く世是  
を色す色き事  
一 公家門跡該大名案向し時を  
前か少くは色白くは案物の  
松列る

天和三年正月

吉原

天和二年正月

武藏國

高川後中田

小豆

市川

定

一 書簡所書下は前より信子と事





一 等頭中一をぬく爲に  
一 等物少く一あるは  
一 戸を司く一但女等物  
一 十歳一十歳若く一少  
一 世を思ふ事

一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し  
一 公家門跡諸大名等向し

右の如く書出方との也何れ執事如件

右の如く書出方との也

奉行

元和三年十一月

武蔵守

小佛

定





一 此間不仕を以て奉養ありし所あり  
美以中を以て女くしる事あり  
事一

一 宗物少くして御の向ひに宗  
物の戸を以てくしる事一但女  
宗物を以て少くし奉養ありた  
少くし奉養ありた事一

一 公家の跡諸大名方兼向し奉養  
ありた事一

及改し自れを奉養し奉養ありた  
事一

右中の方少くし奉養ありた事一

元和三年十月

左行

白鳥三郎宗元

武苑五

新川侯









女と下三つ、由敷切産人、女  
之、人、之、物、を、授、て、以、て、戸、を、和、す  
邪、山、と、云、ふ、を、一、と、以、て、和、今、切  
直、而、圓、而、之、を、如、邊、つ、れ、を、之、り、以、て  
形、を、之、り、是、を、私、の、名、を、何、某  
と、し、中、一、の、母、と、し、之、を、産、む、事  
也、女、名、以、來、中、分、り、之、を、送、り、方  
所、を、中、一、と、し、之、を、後、の、何、事、也、

年号月日

苗氏官  
印判

苗氏官復

日

日

日

私、白、方、能、所、以、戸、之、苗、氏、官、復、  
之、也、能、所、以、

上包









一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女

子号月。

苗民姓名 印刷  
書判

宛所札

日行

日行

右之書古京の書物案

一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女  
一 母味兼下女





中分より一長中方形の中一山陰  
端一

手号月

苗氏官立判

家系板

甲

甲

甲

今一甲

和日文之源を以て方人不依一

所中女子於證又案

女を一人長江戸某法女何郡何  
村と云ふ者一曰雄水少伴友  
室亦た女を云ふ事あり  
右一女子傳多所を今日カ部八  
方東の庄源ハ中一母一  
より女子身以本山の山女仕在  
一人を以て多事不中一上法連判





しるゝも 経出中 理下 作ら 爲後  
日 讀 成 爲 上 之 變 仍 如 件

年 号 日 人 之

少 之 理

名 主

所 之 案 之 人

和 白 方 之 從 又 之 町 吉 行 在 案 判

中 之

貞享三年丙寅年七月十日

女 之 取 之 案

女 上 下 之 人 之 内 之 物 之 授 送 江

户 信 濃 玉 横 田 中 之 雜 水 関

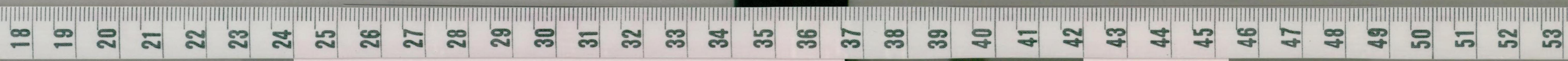
所 之 亦 亦 通 之 之 之 之 誰 之 之 案

何 之 某 之 中 之 之 婦 之 之 誰

及 以 行 之 之 案 之 之 案

年 号 日

判





松戸人改定中

此陸小何所著一京所松戸  
其所著書者造一々々々  
本一々々の、姉一也証及所付  
少部其以上

貞享二年七月一日  
亂心女一人、系物之、提後、口戸

雄水  
人改定中

判  
判  
判



貞享三年七月十日

女何人送江戸致し由言回と  
碓氷雲川 雲所 吾女遊て云々  
本所云々自平姓源六娘し  
物持成 養子良屋市右衛門山村  
右左衛門 杉屋 是者致し物  
其山村致し 中 書屋 渡室 去 瑞慶  
乃 付 台 如 新 山 望

貞享三年七月十日

碓氷

人改在申

貞享三年七月十日

女何人送江戸致し由言回



関ふる部

能令

女上下何人、何

一 字物

何換

一 禪尼

是よりよき人の後

室又姉妹孫の

誓利するをいふ

一 尼

是は普通の女り

誓利するをいふ

一 比丘尼

是は伊勢の上人

若くはちりて人を

とのち子みきよ

き人のむけり

有りてお能の

比丘尼おや

是は誓友の志能ふ

よき人か切りぬ

おしよふとをいふ

一 誓友知





一 礼心  
一 手負  
一 囚人

男女とも  
男女とも  
男女とも

Handwritten notes in cursive script, including the word '礼心' (Reishin) and '手負' (Tenui).

一 少女

Handwritten notes in cursive script, including the word '少女' (Shoujo) and '物主神' (Monushin).



一首

男女

一 死骸

男女

右に色手形を載し美不富  
し殊に有しと改し一書外を  
不及改し但名所等し者有し首  
一書方より書付て是し官隠其類  
下改し書付し口限少く年月  
海を去る色手形一書外少く  
形より書付し書付し類少く

白く平所 守破下通し句端  
多し少く色手形

貞享三年七月十日

能く

内花

内水

内花

貞享三年







一 舟のふかき  
一 往をくし案ふあし前より並に  
中をぬく魚一 魚物を方  
をむくしあしをぬく女上り  
一 船は成程又さしこし  
一切ふくまひ  
一 船地を換ふとあ改てをくしまふ  
敷多き時しはる名馬可程を  
意法あり或は一日ありたる魚

舟事

一 人君のひらう金き福の馬物を  
實敷金と義あわしはる  
まふあしあしあし  
一 舟のふかき  
一 舟のふかき  
一 舟のふかき

舟人又いふ舟人の舟  
舟人舟は成程又けり





もろもろの

古くある書に方々の物も知れず

貞享三年十月廿日

吉行

元禄八年五月

吉行

氣賀

定

一 往々しき書に昔あるものありて是

以中ぬきしるる書にあり

一 高物とて上下にあり

戸子とてあり

一 附書の書にあり

一 高物とてあり

一 公家御所外に諸大名往々し

一 判書あり

一 百改不及あり







附女高島くく出の女はる家  
の女と抄出—と改むる事  
事—

一 自負死人并—女高島くくとの従  
久あくく—して存しはる事  
事—

一 堂上の人—信長名の従者が  
祈—す—をかり—何は河  
流—なりはる事—

あ—あ—あ—  
に改むる事—

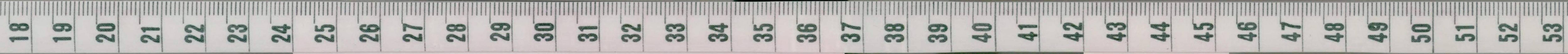
右條—嚴密—とある名も仍執事  
如件—

河津元 乙卯月 事

河津元 乙卯月

事

今切





是

一 要所を以ての業を物の戸  
を以てしり業中を以てし  
其を以てしり

一 往來の如くしり業中を以てし  
其を以てしり

一 往來の如くしり業中を以てし  
其を以てしり

一 往來の如くしり業中を以てし  
其を以てしり

一 往來の如くしり業中を以てし  
其を以てしり

一 往來の如くしり業中を以てし  
其を以てしり

一 往來の如くしり業中を以てし  
其を以てしり

一 往來の如くしり業中を以てし  
其を以てしり









百子今改日礼不常身と交河と  
むすの初列了

元治二年七月

五郎

元治二年七月

上野玉

碓氷

定

一 此間所産の物とて、昔も此間  
の物とて、昔も此間

一 此間所産の物とて、昔も此間

産を以て、昔も此間

物、昔も此間

名せしむるは、昔も此間

一 此間所産の物とて、昔も此間  
昔も此間



百六十九の改自然に常一、  
ら、  
右の如き事、  
仍執送の件

明治二年七月

吉野

明治二年七月

何事も在りて、  
左の如き事、  
仍執送の件

明治二年七月

吉野

右の如き事、  
三、  
百六十九の改、  
仍執送の件

明治二年七月

吉野

右の如き事、  
仍執送の件









四月分

自刑字三教  
女教字一人

伊豆守殿

五月分

自刑字三教  
自教字一人  
男自刑

法政書殿

六月分

自刑字三教  
一教字一人  
男自刑  
男自刑  
男自刑

肥前守殿

七月分

三教

礼心男自刑

百拾枚目

三教

礼心男自刑

自刑教

抄百拾人

三教

礼心男自刑

三教字一人

相平伊豆守

大寺伊豆守殿

相平伊豆守殿







未月分

小書置

一 西多利 武拾殺

大西把首字

寺女教 可拾九人

寺分

部拾九人

女

拾九人

少女

可拾九人

髪切

可拾九人

尼

一 部拾九人

髪

何月分

小書置

一 西多利 何拾何殺

何一 誰殺

寺女教 何拾何人

寺分

何人

何

何人

何

何人

何

何人

何

一 何拾何殺

何一 誰殺









淡路守  
肥前守

乙未年十月廿六日

此知所由海陸之少多而  
其立之往來之男女之  
其不及中其外何少も改  
其多も改其方也

言礼令之其定去也  
存之其字之委細也  
只留之惟其書之也  
小之極子也  
大之保方也

十月廿六日

横田信中書  
大久保長陽書  
杉尾謙三郎





正徳己未年十一月廿八日

河内

播磨

和歌

大和

伊勢

丹波

丹波

但馬

播磨

日向

肥後

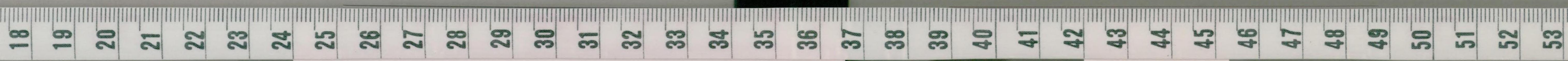
豊後

伊豫

讃岐

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*











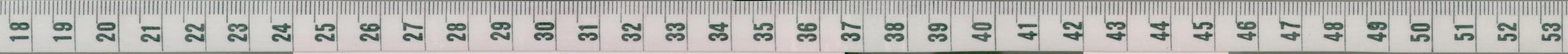


古多し一高地引取付く  
禮文向井将監出し引取可  
信只今迄一内給し一あ一妻  
子以代古所し高下引一  
寸も少島定之守行一西代古  
一形一付一平一  
西代古一浦所禮文平  
古友良是妻一姉妹引一  
少食古社奉行一内井将監

取形一古付一平一  
禮文向井浦所禮文平  
古一形一付一平一  
古一形一付一平一  
浦所禮文古一形一付一平一  
古一形一付一平一

方

安永三乙未年五月廿八日





加納亭の教訓

四國付

諸由園所女手形し而量幾し  
言り別其女し身分引法は  
者著其功しし一人引支  
配し法又若く四の由居し  
形し法為し其又身分引法  
女し身分引法他し其の  
白の引法其法又し其法

形し法又若く四の由居し  
形し法為し其又身分引法  
女し身分引法他し其の  
白の引法其法又し其法  
形し法又若く四の由居し  
形し法為し其又身分引法  
女し身分引法他し其の  
白の引法其法又し其法  
形し法又若く四の由居し  
形し法為し其又身分引法  
女し身分引法他し其の  
白の引法其法又し其法





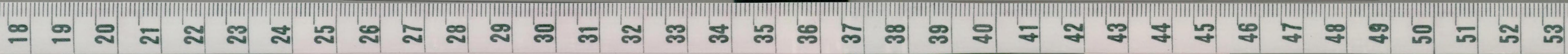
江戸幕府のしよの或は住居し者  
又と福中やしよのより禮又を  
中、若し能く分るも千十村に  
古居の上を合  
右に江戸の遠くしよのより

子月

折しよのより

寛政三年七月

諸由由愛お 御目見しよの  
よのより、よのより、よのより  
下中、方、部、中、補、殿、と、何、後、有  
由、達、中、の、也 御目見しよの  
配、お、しよのより、よのより、よのより、よのより  
達、と、よのより、よのより、よのより、よのより  
為、よのより、よのより、よのより、よのより





七月 坂部十彦  
方へ達し方より仰出し由事  
付与たあら存る旨之調之とて  
之し部を立年部申上語入  
部申上除下也

寛政三年七月十日

法皇御書

御目見之

之の色紙に首致下事有  
松号部少輔殿に仰渡し諸事  
申し方也 御目見之  
来し方安仕と松に仰渡し  
右殿来し由 御目見之  
之の事是迄に之を加ふ  
之り松に仰渡し依し  
由事

七月

坂部十彦





方々達書之々々 仰之申云  
付与之申云云 万々調之申云云  
素之類之申云云 類申之類入之  
類申之類入之類

寛政三年庚申七月廿九

此書亦互所之類之類申云云  
尚又之類之類申云云

御目見付之類長之類申云云  
之類之類申云云 之類申云云  
之類申云云 之類申云云  
之類申云云 之類申云云  
尚又之類申云云

七月

方々達書之々々 仰之申云云  
之類申云云 之類申云云  
之類申云云 之類申云云





下地

寛政三年庚申七月廿九

以實事在行に候はる是程に補政  
に於て又此類意抄向に其意に未  
御目より候に家来一日に御就言  
に候に其類意抄向に其意に未  
御目より候に家来一日に御就言  
に候に其類意抄向に其意に未

一白に候に其類意抄向に其意に未  
御目より候に家来一日に御就言  
に候に其類意抄向に其意に未  
御目より候に家来一日に御就言  
に候に其類意抄向に其意に未

七月廿九

板部平右衛門

右に候に其類意抄向に其意に未  
御目より候に家来一日に御就言  
に候に其類意抄向に其意に未  
御目より候に家来一日に御就言  
に候に其類意抄向に其意に未



囚獄

四ノ二十一

*[Faint handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript.]*



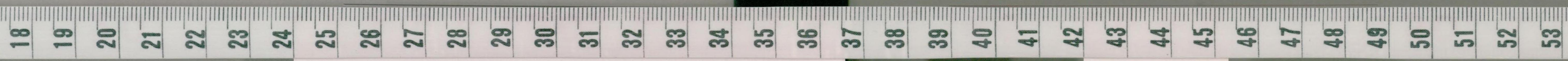
因獄

朱書

此部中ハ諸人等誤教多ク  
多クハ以テ其調ヒト認入セ  
物

右様元由尾子年六月十日

因獄石正勤吉文ハ仰渡  
是  
一 宰配多クハ官宰屋風俗為事ハ









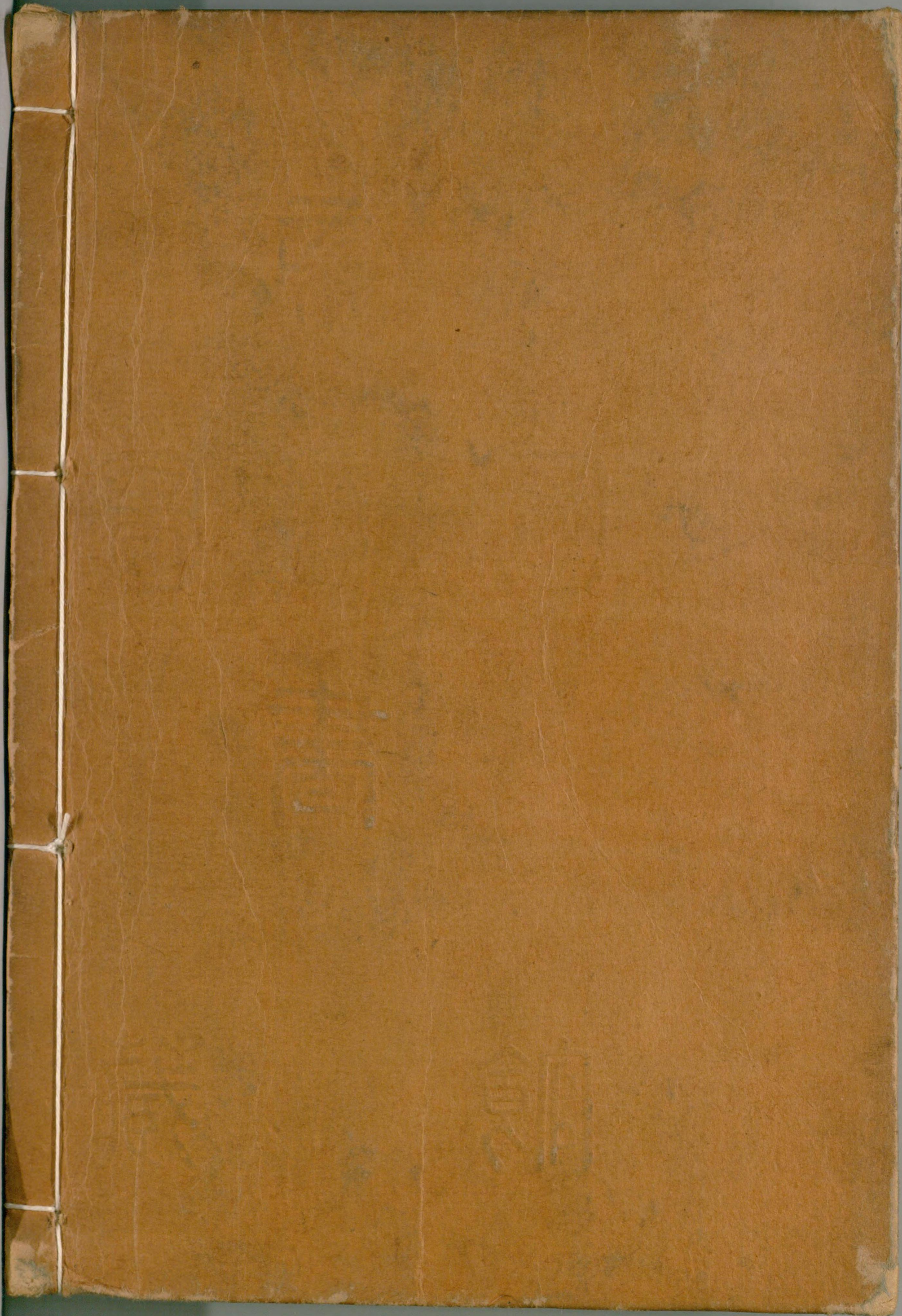
卯  
合 66  
1



国立国会図書館 タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用





国立国会図書館 タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用